

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	奈良県	事業実施主体	上北山村	地域再生計画名	森林と共生した豊かな村づくり計画
計画期間	令和２年から令和６年	評価責任者	上北山村 建設課 課長 岩本 達幸		

①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値			最終目標値			事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
	目標 1	木材搬出量の増加	600㎡	R1	700㎡	R4	1425㎡	800㎡	R6	300㎡		△	指標 総数		達成 数
	目標 2	林業就業者数の維持	9 名	R1	9 名	R4	16名	9名	R6	10名		○	4		1
	目標 3	道の駅利用客数の増加	4万8千 人	R1	5万人	R4	5万6千人	5万3千人	R6	4万7千人		△			
	目標 4	観光入込客数の増加	172千人	R1	173千人	R4	158千人	175千人	R6	136千人		△			
②事業の実施状況に関する客 観的な指標（KP1）の実現状 況	重要業績評価指標（KPI）		基準値		中間目標値			最終目標値			事後評価	達成状況			
	指標 1	危険箇所数	73	R1	56	R4	55	47	R6	46				－	
	指標 2	林道サンギリ線及び林道河合22号 線を利用し搬出する木材量	300㎡	R1	350㎡	R4	564㎡	400㎡	R6	100㎡				－	
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価									
			計画	中間年度 (R4)	最終実績										
地域再生計画に記載がある 特別の措置を適用して 行う事業	林道整備事業		1.0 k m	0.68 k m	1.0 k m	路線ごとには整備延長の増減があるが、計画通り完了した									
	村道整備事業		0.41 k m	0.31 k m	0.43 k m	路線ごとには整備延長の増減があるが、計画通り完了した									
その他の事業	ヒルクライム大台ヶ原事業		大台ヶ原の雄大な大自然の中を駆け 抜ける全国的な自転車競技			令和2年から令和4年においては、新型コロナウイルス感染症の影響により大会を中止していたが、令和5年より大会を再開し、毎年選手及び関係者1200人、地元及び村外ボランティア500人が 参加し、平成17年からは林道水太和佐又線辻堂山線をレースコースとして使用。大会前は勿論、週末には多くの方が試走や練習に訪れており、大会当日の参加者以上に村を訪れる方の誘致 に寄与している。									
	大台ヶ原マラソン事業		大台ヶ原の雄大な大自然の中を駆け 抜けるランニングイベント			令和2年から令和4年においては新型コロナウイルス感染症の影響により大会が中止となっていたが、令和6年に大会を行い、毎年選手及び関係者約500人、地元及び村外ボランティア200人が 参加し、村に訪れる方の誘致に寄与している。									
	心の道ウォーク事業		世界遺産に登録された霊場と参詣道 「大峯奥駈道」を探索し、自然に親 しむとともに、修験の歴史を感じて もらう登山イベントの開催			平成16年から実施しており参加人員は延べ3000人に及ぶ。世界遺産でもある大峯奥駈道や大台ヶ原等を探索し自然に親しむことを発信し観光客の増加を図る。									
	連携コミュニティバス事業		路線バスの廃止に伴い、住民の通院 及び観光客の交通手段の確保			路線バスの廃止に伴い住民の通院及び観光客の交通手段を確保するため、大淀町・吉野町・川上村・上北山村・下北山村の2町3村で連携コミュニティバス「ゆうゆうバス」を運行し、そのバスの 運行時刻に併せて村内各地を回る村内コミュニティバスも運行し、村民の健康や観光客の増加を図っている。									
計画外で独自に実施した 事業	大台ヶ原の冬期利用		冬季は通行止めとなっており普段入 ることのできない大台ヶ原での冬季 ツアーイベント			大台ヶ原ドライブウェイは冬季通行止めとなり冬季は大台ヶ原を利用することが出来なくなっている。そこで限定的ではあるが年1～5回程度ツアーを実施し新たな魅力を発信し、観光客の増加 を図っている。									
④評価方法	森林と共生した豊かな森づくり計画評価委員会を開催し、最終目標値の実現状況について評価、検討を行った。														
⑤事後評価の公表方法	上北山村ホームページで公表。														
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、村道及び林道の整備を実施し、危険箇所数の減少や整備量の延長の目標を達成出来たため、最終実績の木材搬出量に関する目標は達成出来なかったが、木材搬出量の増などの効果も概ね発現できると考える。道の駅利用客の増加や 観光客の入込客数の増加に関する目標も最終実績は達成出来なかったが、国道169号の通行止めの影響が大きく、現在は通行止めが解除されているため、改善される見込みである。														
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、現在は木材の搬出量は伸び悩んでいるが、村道及び林道の整備が円滑に進んでおり、林業就業者の増加も達成出来たため、今後は十分に増加を見込むことが出来る。本地域再生計画は令和6年度で終了するが、今後も村道・ 林道の整備事業を推し進めることで、観光客数の増加を図りたい。														